

平成27年度

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

授業アイデア例

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして作成するものです。

本資料は、現時点版の一部を抜粋したものであり、今後、9月までに作成し、各教育委員会や学校等に配布する予定です。

(完成版は、小学校版、中学校版、各24ページを予定)



平成27年9月

「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」

想像した自分の思いや考えが伝わるように音読することができる

登場人物の行動や気持ちの変化について想像しながら音読することに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、この課題を解決するために、物語の内容と自分のもっている知識や経験などを結び付けながら、繰り返し何度も声に出して物語を読むことで、想像を広げたり理解を深めたりする指導事例を紹介しします。なお、本アイデアは、第3学年及び第4学年以上を対象としています。

授業アイデア例

単元「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」(全8時間)

昔話を取り上げるよさは？

昔話を読むことを通して、伝統的な言語文化としての古典に出会い、親しんでいく始まりとなります。また、地域において口承されてきた民話などを取り上げることも考えられます。

こんな民話・昔話があります

- ・花さかじい
 - ・いなばの白うさぎ
 - ・おおきなかぶ
 - ・かさこじぞう
 - ・スーホの白い馬(スーフと馬頭琴)など
- ※日本だけでなく、世界の民話・昔話が教科書で紹介されています。

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習課程

第一次

単元を貫く言語活動

昔話の大好きな場面を選び、音読して紹介する

第二次

第三次

- ① 教師による、違ったモデルの音読を聞き比べることで、読み手の感じ方の違いによって音読の仕方が変わることに気付く。
- ② 昔話を音読して紹介するというテーマを設定し、昔話を読んで、自分が感じたことを音読して紹介する学習の見通しをもつ。

- 教師が二つの違った音読のモデルを示すことで、児童が二つの音読を比較しながら、読み手の感じ方の違いによって音読の仕方が変わることに気付くようにする。
- どんな声を出したときに、どんな気持ちや場面の様子を表現できるか、様々な声を出すことで、音読を工夫することに対する興味・関心を高めるようにする。

- ③ 【びょうぶのとらのお話】(『一休さんとんち話』)を読んで、場面の移り変わりや、登場人物の気持ちの変化を捉える。
- ④ 何度も繰り返し音読しながら、自分の感じ方に合わせた音読の工夫を考える。
- ⑤ 互いに音読を聞き、助言し合う。
第三次に入る前に・・・
- ⑥ 全員で共通した昔話の一つを取り上げ、感じ方の違いに合わせた音読の工夫を取り入れる。

- 音読を中心にしながら、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えるようにする。
- 「音読するときに工夫するポイント」を具体的に示すことで、児童が音読を繰り返しながら、自分の感じ方に合う音読の仕方を見付けることができるようにする。
- 「～な様子や～の気持ちを表します。」と紹介してから音読し、自分の感じ方に合った音読になっているかという観点で友達同士聞き合い、助言し合うようにする。
- 共通の昔話を通して、再度、音読の工夫について確認してから第三次に入るようにする。

- ⑦ 並行読書した昔話の中から、自分が紹介したい作品を選び、場面を決めて音読の工夫を考える。
- ⑧ 自分が感じたことを音読で表し、友達や他学年の児童に紹介する。

- 様々な音読の工夫を繰り返し試しながら自分の感じたことを伝えられる工夫を選択していくようにする。
- 音読で紹介する際、なぜその場面を選んだのか、その理由についても伝えるようにする。

単元を通して、昔話の並行読書

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 音読の工夫について学習する際に、傍線や記号などを使って視覚的に表現することなども考えられます。
- 第三次の学習に入る前に、教材文のほかの昔話を取り上げて共通教材とし、各自の音読の工夫について確かめることで、第二次の学習で身に付けた力をより適用できるようにします。
- 本や文章の内容や表現の特徴に合わせて、音読の目的や方法を工夫させることが大切です。

課題の見られた問題の概要と結果

B3 相手や目的に応じて読み聞かせをする
 〈とんち話「びょうぶのとらのお話」〉

B3二 正答率 **66.8%** 声に出して読むときの工夫とその理由を書く

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年及び第4学年〕 C ア
 〔第5学年及び第6学年〕 B ウ

第一次①/8 教師による音読を聞き、自分の好きな昔話を音読して紹介するという単元の見通しをもつ

〈1時〉 違ったモデルの音読を聞いて比べる。

教材例：とんち話
 「びょうぶのとらのお話」

(困ったような低い声で)
 「実は、このとらじゃ。」

(とぼけたような高い声で)
 「実は、このとらじゃ。」

どうして先生の音読は違ったのな？

Aさん

音読を工夫することへの興味を高める。

音読する時に注意することは登場人物の気持ちの変化を想像しながら声に出して読んでいくことですよ。

感じ方の違いで音読の仕方が変わるんだな。

相手に伝わるような声の出し方を工夫しよう。

声の大きさや読む速さを変えて読んでみよう。

Bさん

Cさん

Dさん

第二次④⑤/8 教材の文章を使って、繰り返し音読をしながら、音読の工夫とその理由を明らかにする

〈4時〉 音読の工夫を考える。 教材例：とんち話「びょうぶのとらのお話」

ぼくは、大きな声で、あらい感じで読みます。その理由は、とのさまは一休さんの言葉に対して腹が立ったからです。

Bさん

わたしは、小さい声で読みます。とのさまは一休さんにやりこめられてしまい、落ち込んで元気をなくしたからです。

Aさん

とのさまは、思ったとおりいかになくて残念な気持ちだったと思います。だから、わたしは、声をだんだん低くして読みます。

Cさん

ぼくは、間を取りながらゆっくりとした速さで読みます。なぜなら、一休さんのとんちに感じたとのさまの気持ちを表すことができると思うからです。

Dさん

	声				音読するときの工夫するポイント例
間	高さ	速さ	強さ	大きさ	
取る・取らない	高い・低い	速い・ゆっくり	強い・弱い	大きい・小さい	

「音読するときの工夫するポイント」を活用して、自分の感じ方に合う音読の仕方を見付けることができるようにします。



自分の感じ方にぴったり合う音読の仕方を見付けるために繰り返し読むよう児童に促していくことが大切です。



〈5時〉 助言し合い、自分の音読に生かす。

ポイント

一人一人の感じ方には違いがあることを大切にしながら、音読の楽しさを味わえるような活動にすることが必要です。

なるほど。

Cさんは、ゆっくり音読すると残念な気持ちが、強く伝わるとおもうよ。

Cさん

Dさん

Bさんは、もう少し怒ったように音読するとういと思うなあ。そうするととのさまが腹を立てている様子がよく分かるよ。

Bさん

じゃあ、もっと大きな声で音読してみよう。それから、間の取り方はどうしようかな。

Aさん

第三次 並行読書の中から選んだ作品を紹介するために音読の工夫をする

参照▶「平成27年度 報告書 小学校 国語」P.66～P.72, 「平成27年度 解説資料 小学校 国語」P.54～P.59

日常生活の事象に見られる増量の場面を図に表して

B②(2)の結果を分析すると、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題が見られました。本授業アイデア例は、日常生活の事象に見られる増量の場面を振り返り、その場面を図に表したり、子どもたちにとって考えやすい数を用いたりすることで、増量の場面における数量の関係を捉えることを狙いとした授業です。

授業アイデア例

家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。増量前のせんざいの量は何mLですか。

① ねらいを明確にする



どんな式になりますか。

480×0.8



$480 \div 1.2$



$480 \div 0.2$



ねらい

20%増量する前の量を求めるための正しい式を、数直線をもとに考えましょう。

② 20%増量前後の数量関係を捉える

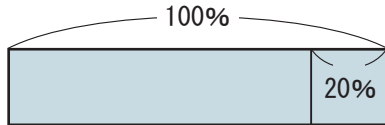


20%の増量とは、どういうことでしょうか。

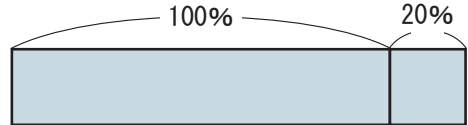
20%増えることですね。



20%増量して、100%になることだと思います。



100%から、20%増量することだと思います。



増量後が100%である考えと、増量前が100%である考え、どちらが正しいでしょうか。まず、20%増量は、生活の中でどんなときに使われているか、思い返してみましょう。



お菓子が20%増量して売られていました。



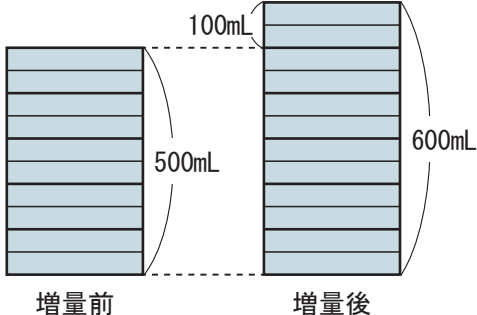
500mLの飲みものが、20%増量して600mLで売られていました。



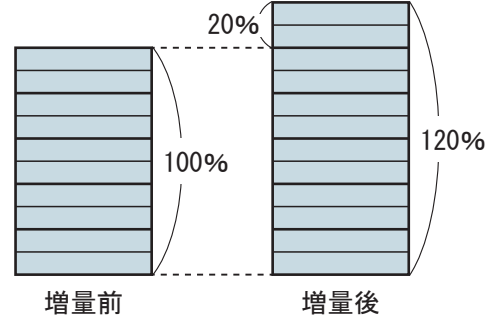
500mLの飲みものが20%増量して600mLになったことを図に表してみましょう。

子どもたちにとって考えやすい数で、数量の関係を捉えることが大切です。

ポイント



$600 - 500 = 100$ だから、増量した量は、100mLです。これが増量した20%にあたります。



100mLが20%だから、増量前の量は500mLで100%、増量後の量は600mLで120%になります。



課題の見られた問題の概要と結果

B2 場面の読み取りと処理・判断 (おつかい)

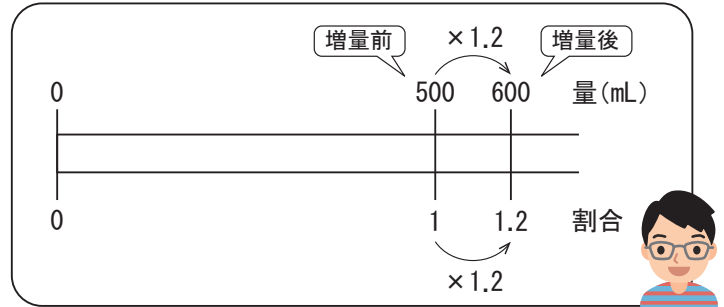
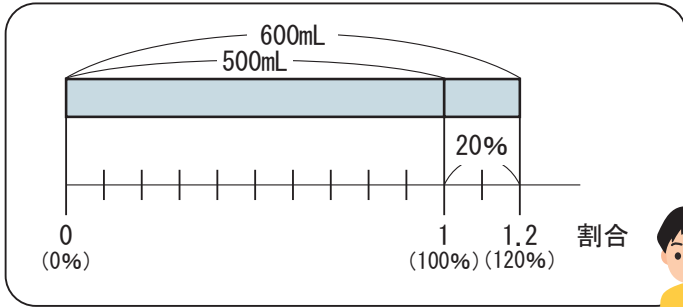
B2(2) 正答率 13.4% 20%増量した商品の内容量が480mL
であるとき、増量前の内容量を求める
式と答えを書く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年〕 D 数量関係 (3)



図から分かったことをもとに、増量前後の関係をテープ図や数直線に表してみましょう。



これらの図をもとに、増量後の量を求める式に表してみましょう。

$500 \div 10 \times 12 = 600$

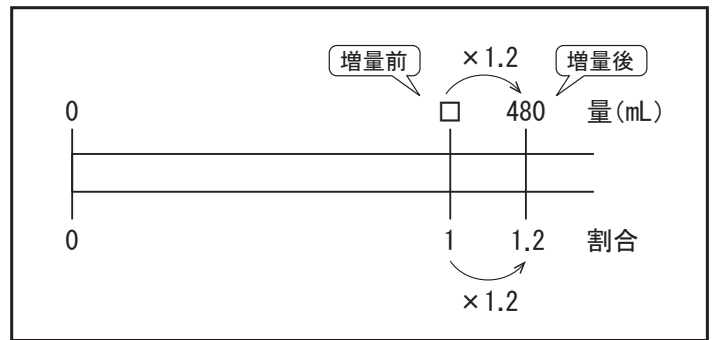
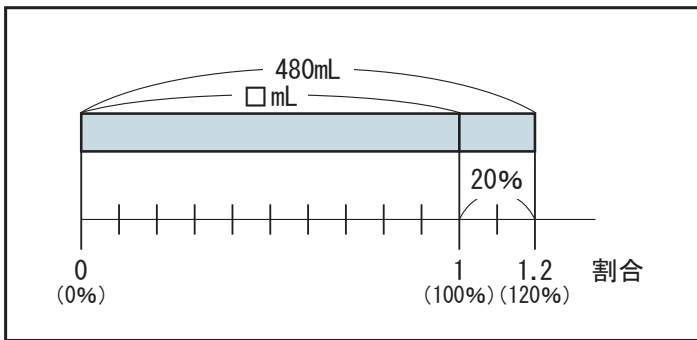
$500 \times 1.2 = 600$

増量前の量が□mLだとすると、増量後の量は、 $\square \times 1.2$ で表すことができると思います。

③ 考えやすい数で捉えた数量の関係を基に、増量前の洗剤の量を求める



飲みもののときの考え方をもとに、せんざいの問題を考えてみましょう。



$\square \times 1.2 = 480$ と式に表せます。□は、 $480 \div 1.2 = 400$ と求められます。
増量前の量は、400mLであると分かりました。

本授業アイデア例 **活用のポイント!**

- 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える上で、基準量を意識するように指導することが大切です。

結果を見通しながら実験方法を考えることができる

実験方法を構想する場面で、自分や他者の予想に基づいた実験結果を見通すことに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、この課題を解決するために、自分の予想を顕在化させ、話し合いを通して結果を見通しながら実験計画を立案する授業展開を紹介します。

授業アイデア例

単元名

第4学年「物の温まり方」〔全11時間〕（本時6 / 11, 7 / 11）

第1次（4時間）

金属はその一端を熱しても、中央を熱しても熱した部分から順に温まっていくことを理解する。

第2次（4時間）

【働きかけ】 沸騰している湯に紅茶の葉を入れ、ガラス製のポットの中で葉が動く様子を横から観察する。

〈問題解決の過程例〉

1 (体験活動 I) 事象への働きかけ (1 / 4)

沸騰している湯に紅茶の葉を入れ、ポットの中で紅茶の葉が動く様子を観察する。



紅茶の葉が動くのは、あたためられたお湯が動いているからかな。

問題

水はどのようにして全体が温まっていくのだろうか。



問題に対する予想をもち、表現できるようにしましょう。

予想



あたためられた水が、上の方に動いて、上から順にあたたまると思うよ。



熱せられたところから順に熱が伝わって、水があたたまると思うよ。



あたためられた水が、横の方に動いてから上の方に動き、上から順にあたたまると思うよ。

実験方法



予想を確かめるための実験方法を考え、予想と一致したときの結果の見通しをもつことができるようにしましょう。

みんなの予想を確かめるためには、どのように調べるとよいでしょうか。

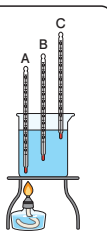


2 (言語活動 I) 問題、予想や仮説、観察・実験計画 (2 / 4)

水がどのように温まっていくか予想し、調べる計画を立てる。



図のようにビーカーに3本の温度計を入れると調べられると思います。



この方法だと私の予想が正しければA→C→Bの順に高くなるはずですよ。



ぼくの予想が正しければA→B→Cになると思います。



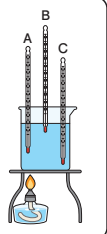
私の予想でもA→C→Bになって、ゆかりさんと同じになってしまいます。これではどちらの予想が正しいか調べることができません。



結果の見通しを基に実験方法を改善できるようにしましょう。



図のように温度計を入れると、3人の予想が正しかったときの結果にちがいが出ると調べられると思います。



この方法だとA→B→Cの順に高くなるはずですよ。



ぼくの予想だとA→C→Bになると思います。



私の予想だとC→B→Aになるので、どの予想が正しいか調べることができます。

③ 粒子に関する問題 (水の温まり方)

③(2) 正答率 54.2% 水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ

学習指導要領における区分・内容

[第4学年]

A 物質・エネルギー (2) イ

3 (体験活動Ⅱ)
観察・実験
(3/4)
水がどのように温まっ
ていくか温度を測って調
べる。

4 (言語活動Ⅱ)
結果の整理、考察、
見方や考え方
(3/4)
実験結果を基に、水の
温まり方についてまとめ
る。

5 (言語・体験活動Ⅲ)
活用関連
(4/4)
分かったことを基に、
熱する部分や容器などを
変えて、同じ量の水をよ
り早く沸騰させる方法を
考える。

＜水の温度の上がり方＞

結果

	0分	2分後	4分後	6分後	8分後
温度計A	25℃	37℃	45℃	52℃	58℃
温度計B	25℃	34℃	41℃	48℃	54℃
温度計C	25℃	30℃	38℃	45℃	53℃



A→B→Cの順番にあたたまるね。

ゆかりさんの予想と同じ
だったね。



考察

実験結果から、水は金属とちがいで、上の方に動いて上から
順にあたたまるといえるよ。



予想や結果などを板書で整理することにより、考えを
より妥当なものに改善できるようにしましょう。

＜板書の例＞

予想	方法	結果の見通し	結果																								
ゆかりさん 		A→B→C の順に高くなる。	〈水の温度の上がり方〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0分</th> <th>2分後</th> <th>4分後</th> <th>6分後</th> <th>8分後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温度A</td> <td>25℃</td> <td>37℃</td> <td>45℃</td> <td>52℃</td> <td>58℃</td> </tr> <tr> <td>温度B</td> <td>25℃</td> <td>34℃</td> <td>41℃</td> <td>48℃</td> <td>54℃</td> </tr> <tr> <td>温度C</td> <td>25℃</td> <td>30℃</td> <td>38℃</td> <td>45℃</td> <td>53℃</td> </tr> </tbody> </table>		0分	2分後	4分後	6分後	8分後	温度A	25℃	37℃	45℃	52℃	58℃	温度B	25℃	34℃	41℃	48℃	54℃	温度C	25℃	30℃	38℃	45℃	53℃
		0分		2分後	4分後	6分後	8分後																				
温度A		25℃		37℃	45℃	52℃	58℃																				
温度B	25℃	34℃	41℃	48℃	54℃																						
温度C	25℃	30℃	38℃	45℃	53℃																						
としおさん 	A→C→B の順に高くなる。																										
りかこさん 	C→B→A の順に高くなる。																										
			結果からいえること A→B→Cの順で高くなる。 結論 水は熱した部分が上に動いて 全体があたたまっていく。																								

**見方や
考え方**

水は金属と違い、熱した部分が上の方に移動して全体が温まって
いく。

第3次 (3時間)

空気は水と同じように、熱した部分が上の方に移動して全体が温まっていくこと、また物によ
ってその温まり方には違いがあることを理解する。

本授業アイデア例 **活用のポイント!**

- 問題に対する予想をもち、図や言葉を使って一人一人が表現できるようにする
まずは予想を図や言葉を使って、ノートやワークシートに表現できるようにします。全体で話し合うときには代表的な予想を黒板に提示し、自分と同じ考えにネームプレートを貼るなどして全員が参加して、実験に取り組むことができるようにします。
- 結果の見通しを基に実験方法を改善できるようにする
「問題に対する予想」と「実験方法」、「予想どおりになった場合の結果の見通し」を並べて板書することにより、自分と他者の考えの違いを捉えた上で、自分の予想も他者の予想も検証することができる、より妥当な実験方法に改善できるように導いていきます。
※ 予想どおりになった場合の結果の見通しをもつことに課題がある児童については、同じ予想をもった他者の結果の見通しを参考にして考えられるようにします。